

令和2年度卒業生の進路決定状況

今年度は、「大学入試センター試験」から「大学入学共通テスト」への変更を皮切りに、入試方式の名称変更(例:「AO入試」→「総合型選抜」)や出願書類の様式変更(「学修計画書」や「自己推薦書」等の提出を求める大学の増加)など、大規模な入試改革が行われました。さらには新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、オンラインによる入学試験の実施など新たな対応も必要になり、これまでと同じようにいかない難しさを感じながらそれぞれの進路を考え、決めていく様子が見られました。年度末にあたり、今年度卒業生の傾向について進路別に紹介します。

【進学】

①国公立大学

例年同様、山梨県立大学と都留文科大学への進学希望者が多く、両大学合わせて17名が学校推薦型選抜(公募制推薦)で合格しました。高い英語力が要求される高崎経済大学の学校推薦型選抜にも合格者が出ています。

②私立大学

コロナ禍の影響により、地元志向が強くなるのではないかという予想に反して、本校では県外大学進学者の割合が昨年度より高くなっています(昨年度44%→今年度59%)。系統別に見ると、文系では経済・経営系、理系では看護・医療系への進学者が目立ちました。学校推薦型選抜および総合型選抜では、出願直前もしくは出願後に試験方式の変更を決定・連絡してきた大学もありましたが、慌てずに対応した結果、大きな混乱はありませんでした。

③短期大学

全体に占める保育系志望者の割合が高い点、地元志向が根強い点はほぼ例年通りでした。また定員が10名と少なく、例年高倍率となる大月短期大学の大学入学共通テスト利用入試でも合格者が出ています。

④看護系専門学校

県内にある4つの専門学校に合計12名が進学します。各校の特徴を丁寧に調べ比較した上で、受験校を決めていました。

⑤一般専門学校

美容師や歯科衛生士、調理師など就きたい職業に直結した資格を取得できる専門学校への進学者が多数を占める一方、公務員志望者が受験対策の強化を掲げる専門学校へ進学するケースも増加しています。

【就 職】

①民間企業・事業所

今年度に限り、就職に関するスケジュール全体が1か月後ろ倒しになりました。例年夏季休業期間を利用して参加する応募前の企業見学等にも制約がありましたが、5名全員が第一志望の企業・事業所から内定を得ました(1名は縁故による採用)。

②公務員

延べ11名が国家および地方公務員試験を受験し、うち1名が東山梨行政事務組合の消防職に合格しました。

1・2年生の皆さんは、第4回定期試験の前に3年生から進路決定のプロセスや具体的な取り組み内容、また苦い経験から学んだ貴重なアドバイスなどを直接聞く機会がありました。その際に感じた「このままではいけない」あるいは「よし！ここで奮起して頑張ろう」という気持ちを覚えているでしょうか。「千里の道も一歩から」という言葉があるように、一定の成果を得るには入念な準備に基づいて努力を継続することが不可欠です。先輩方の話の中でも、この点が共通していたように思います。「その時が来てから考える」では間に合わず、結局自分が後悔することになりかねません。改めて今の自分がすべきこと、変えていく必要があることを考え、行動に移しましょう。

なお、詳細な進路決定状況および合格を手にした先輩方の合格体験記は、新年度の4月に発行する「進路だより」で改めてお知らせします。

順調な滑り出しを目指しましょう！

新年度のスタートとなる4月7日(水)の始業式までの約2週間が、いわゆる春休み期間です。この期間の過ごし方が非常に重要です。次の点を意識して過ごしてほしいと思います。

①課題確認試験(4月9日・金)に全力で取り組もう

両学年ともに「各教科でここまでは理解しておいてほしい」という内容が、春休みの課題として設定されています。時間をかけて丁寧に復習することで、基本事項の確かな定着やより深い理解につながるはずです。得意教科と苦手意識のある教科それぞれについて、自分で目標(得点・解答の正確さなど)を設定し、クリアできるよう工夫して学習してみましょう。

②読書の時間を確保しよう

通常より時間的余裕があるこの時期は、読書を習慣づける絶好の機会です。「本は読みたいけれど、なかなか時間がとれない」と朝読書のアンケートに回答した皆さん、ここで始めてみませんか。

③興味のある大学・専門学校等のオープンキャンパスに参加しよう

コロナ禍により、直接参加型のオープンキャンパスが軒並み中止となった昨春以降に比べると、規模は小さいながらも実施を発表している大学・専門学校があります。ウェブサイトの詳細を確認の上、感染症対策に万全を期して参加し、進路選択の参考にしてください。